

## 令和2年度モニター通信における意見及び回答⑪

### 意見

#### 【自然・環境・都市】市の交通輸送の今後について（要旨）

伊東市は自然に恵まれた、非常に環境の良い街で、シニアが安心して暮らせる街です。

しかし、その豊かな自然環境が故に、車が必需品となっており、高齢になって運転できなくなった時のことを考えると不安になります。また、昨今の高齢者の自動車事故のニュースなどを見ても、公共交通体制の整備は喫緊の課題の一つであると思います。

9/21の新聞朝刊に「南伊豆町住民ボランティア運転手」の記事がありました。

イトーピア別荘地、八幡野地区、赤沢地区などで、公共輸送の代替として、市民ボランティアによる輸送プランを進めていると聞いています。

伊東市の交通輸送の今後の方向性、及び進捗の具体的なスケジュールについて教えてください。

### 回答

本市では、平成30年度に、鉄道や路線バス等の交通事業者とともに、市民の皆様の生活の足となる公共交通手段の維持、確保、改善を図ることを目的に「伊東市地域公共交通網形成計画」を策定しました。

この計画に基づき実施する取組として、鉄道駅やバス路線から離れた交通空白地域における交通手段の導入を検討する取組があり、令和元年度から、伊豆高原地域や伊東地域の分譲地等における地域主体の交通手段を検討する組織等に参画し、意見交換等を実施しております。

このほか、市内の路線バスの利用者が年々減少し、多くの路線が赤字運行となっている中、既存のバス路線沿線には市民がある程度密集して居住していることから、路線バスは維持すべきと判断し、路線バスの約2割に当たる利用者の少ない11路線について、平成11年度から補助による運行支援を行っております。

また、新聞記事に掲載されておりました、市民ボランティアによる移動支援につきましては、静岡県モデル事業として、南伊豆町と同様に、伊東市においても令和3年度中に2地区のモデル地区にて開始する予定となっております。

本年度は12月から令和3年3月までをモデル事業の準備期間とし、高齢者の外出をどのように支援するか、「伊東市に合った移動支援」のこれからを考えるためのセミナーを月1回（全4回）開催するとともに、運転実技講習を2回行い、運転ボランティアを養成します。

養成講座修了後に、モデル地区にて3か月から6か月の期間で実証実験を行い、住民主体での運用へと移行していくことを考えており、他の地域でも必要に応じて順次開始する予定となっております。

本事業は地域の方々の協力なくしては実施が難しいため、一人でも多くの方に地域の実情を御理解していただき、運転ボランティア活動に参加していただきたいと考えております。

伊東市の交通輸送について 担当：都市計画課 計画係 電話：32-1781

市民ボランティアによる移動支援について 担当：高齢者福祉課 長寿支援係 電話：32-1562

## 意見

### 【観光・産業・交流】市民の意識改革について（要旨）

令和2年4月1日現在の高齢化率が42%を超え、人口も本年9月末現在で67,225人である伊東市において、高齢者の活性化は必須の施策であると考えます。

最近読んだ本に、出口治明さんの「還暦からの底力」（講談社現代新書）があります。出口さんは60歳でライフネット生命を創業し、70歳になるとライフネット生命を退職して、立命館アジア太平洋大学学長に就任されました。

この本の中で出口さんが主張されているのは、「年齢基準のリタイア（定年）」から「体力・気力基準のリタイア」へ意識改革せよ、ということです。ジャスト年齢の私などは、非常に元気づけられました。

そこで、出口治明さんをお呼びして、「還暦からの底力」の講演会をやって頂き、老若男女を問わず、市民の意識改革を促せたら面白いと考えました。「高齢者を資源に替える伊東市」という、パブリシティ効果も期待できると思います。

## 回答

少子高齢化が進む中、本市におきましても、労働力として、さらには、その他様々な分野における高齢者の社会参画の場の創出は、非常に重要であると認識しております。

御提案いただきました講演会につきましては、大変有益なことだと思っておりますので、開催が可能であるかを含め検討してまいります。

担当：産業課 商工労働係 電話：32-1734